

元年檢注田定」とあるによつて、この正院に郡家が在り、驛傳を兼ねたのであるとし、和名抄に珠洲驛を載せぬのは、例に依つて省略したのであるとして居る。しかし、大同三年紀の文を珠洲の次に郡何々の三字を脱したものと見られぬこともない。果して然らば後世馬糞といふもの、名によつてその驛址かとも思はれる。又能登志徴は鈴屋だらうとしてゐるが、それでは待野との關係が判らなくなる。

ススオクシヤ 鈴奥社 ↓スズジンジャオクミヤ 須々神社奥宮。

ススガダケ 鈴ヶ嶽 能美郡大杉川の水源南方にあつて、江沼郡に跨る。高さ一一七五米。

ススガタケ 鈴ヶ嶽 珠洲郡山伏山の一名。寶永元年一覽記に、『鈴ヶ嶽へ登る。此山をかう波山とも山伏山ともいふよし。山上に虚空藏の小堂あり。』とある。

ススガミネ 鈴ヶ嶺 スズガ 鳳至郡上町野郷に屬する部落。慶長五年七月十三日前田利政の判書には鈴峯と書いてある。

ススキイナバ 鈴木因幡 もと紀州浪人で尾張に居り、後に能登に來り、長續連の臣加藤新三郎を養子として長家に入入してゐたが、天正五年七尾の落城以後、上杉氏の將鮎坂長實に隨從した。然るに六年以降は長連龍の配下に屬し、所々の戦に活躍して居る。

ススキウキヨウノシン 鈴木右京進 鈴木出羽守の嫡子。加賀一向一揆の徒で別宮城に在つたが、天正八年十一月父と共に柴田勝家の爲に誘はれて殺され、その首級を安土の織田信長に送られた。

ススキコウ 鈴木行 通稱新左衛門、默齋

と號した。關堂忠左衛門の子で、鈴木和儀に養はれたもの。鹿島神傳流の劍法を生父に學び、又江戸に往いて藤川彌司郎右衛門の門に入つた。既にして從游する者甚だ多く、近藤忠之丞の仇を報じた時、行亦窮かに之を助けた。行武事の傍書を市川米庵に習ひ、又筆策を吹いて自ら樂しんだ。明治十年十二月十四日歿、享年七十二。

ススキゴンノスケ 鈴木權之助 前田利家に仕へて四百石を受け、寛永十二年歿。子孫第五代萬兵衛に至つて斷絶した。

ススキシゲクニ 鈴木重國 通稱權兵衛。長連龍の臣。慶長五年八月能美郡淺井驛の戦に、丹羽長重の臣森野治左衛門の爲に討取られた。

ススキスケザエモン 鈴木助左衛門 岡島茂右衛門の子で、前田綱紀に召出され、三百石を領し、元祿七年歿。子孫世々藩に仕へる。

ススキセイベエ 鈴木清兵衛 諱は正道。湖夕又は秀蘭扉と號した。金澤の市人。人と爲り恬靜寡欲、能く業を守り、餘暇には和歌簫箏を好んだ。毎月小松梅林院の連歌會に列し、積年懈ることなかつたので、藩から白銀若干を賞賜せられ、慶應三年六月八日七十三歳で歿した。

ススキタダナカ 鈴木忠長 通稱清太夫。元祿十年養父又兵衛の遺知二百石を襲ぎ、正徳四年割場奉行に任じ、享保三年因幡御前附御用人として五十石を加へ、十九年同御附物頭並に進み、元文二年御免、延享二年十月六十八歳を以て歿した。

ススキテハノカミ 鈴木出羽守 一向一揆の首領で、能美郡別宮城主であつた。天正八年四月本願寺顯如が出羽守に與へて、國中同心の上勢力の維持を圖ることを勧めた消息がある。同年金澤御坊の陥落後、柴田勝家は佐久間盛政をして之を圍ましめたが、容易に抜くを得なかつたので、伴つて出羽守の降を容れる爲に勝家の本營に招いて害したといふ。その子右京進・次郎右衛門・采女・太郎も亦不慮の死を遂げた。出羽守の據つた別宮城は又鳥越城ともいふもので、それを二曲に居たとするは誤である。また出羽守の諱は松任本誓寺文書に義明に作るが、その文書自體が確實なものとはいへない。越登賀三州志には重泰としてゐるが、これは堀麥水の三州奇談に倣うたものなるべく、その據を知らぬ。

ススキトウキユウ 鈴木桃久 鹿島郡久江の人。天保六年生。名は幸平。俳諧を大西荷月に學びて所居を有隣堂と號した。明治十九年歿。

ススキノ 薄野 鳳至郡七浦庄に屬する部落。

ススキマゴザエモン 鈴木孫左衛門 高山南坊の徒であつたが、慶長十八年外教禁止の際轉宗を誓うて處刑を免れた。後孫左衛門は越中魚津郡代に任ぜられ、尋いで江戸に祓役したが、その内心眞に改悔した者でないことを密告するものがあつたから、加賀藩は之を召還し、一族上下七人を魚津に磔殺した。この處刑は、三州奇談に、魚津郡代大音主馬の時にあると記されるが、主馬の郡代であつたのは、寛永四年乃至十三年である。

ススキマンベエ 鈴木萬兵衛 延享二年父清太夫忠長の遺知二百五十石を襲ぎ、大小將に班し、後小拂奉行在勤中謀書を以て藩銀を

窃取し、寶曆二年六月揚屋に收容せられ、三年牢死した。

ススキミチカツ 鈴木道一 通稱左兵衛・宇右衛門。前田吉徳の側室心鏡院の兄。元文元年召出されて二百石を領し、寛保三年大小將となり、寛延二年歿。子孫三代半藏安之に至つて斷絶した。

ススキミツヒロ 鈴木光弘 通稱長左衛門。父を鈴見屋徳兵衛といひ、水野光政に技を學んで白銀職となつた。二代長左衛門兼弘家を襲いで、文政三年歿し、兼弘の弟長左衛門光宣、兼弘の子長左衛門兼宣相續き、その後も亦長左衛門の名を襲うた。

ススキヤスユキ 鈴木安之 通稱鉄三郎・半藏。明和八年幼にして養父宇左衛門安聰の祿三の一を襲ぎ、次いで本知二百石に復し、役銀奉行に任じたが、文化十年藩銀私曲の事露顯して揚屋に收容せられ、十一年六月十三日四十六歳を以て牢死した。

ススゴホリ 珠洲郡 能登四郡の一なる珠洲郡は、出雲風土記に都々之三崎とするものであらう。その語源に就いては、或は鷺の意にして、土宜に取るとの説があるが信じ難い。鷺は海邊に生ずるものでないからである。又鳳至の名の鳳至比古神社より出たに同じく、珠洲は須須神社によりて起るとするものは、共に本末を顛倒せるものである。承久三年注進の能登國田數目録に珠洲郡とし、須須神社所藏應永十年二月九日附の寄進狀に殊々郡の字を用ひ、前田利長判書某年正月十九日附のものに鈴郡在々百姓中と宛名を認めた如きは、いづれも誤用である。

ススシヨウ 鈴庄 源平盛衰記卷十三高倉